

保育計画成果報告書

法人名等	株式会社テノ. コーポレーション
施設名	ほっぺるランド西新小岩
報告者（役職）	高田 利加子（施設長）
住所・連絡先	東京都葛飾区西新小岩 3-14-18
	☎ 03-5654-9310
	E-mail nishishinkoiwa-hoppel@teno.co.jp

○タイトル（保育計画）

さわって！つくって！ほって！かがやけ感性！ぼくらどろんこ大好きっ子！

○主な助成備品

砂場、砂場用遊具、砂場テーブル

1. 保育計画策定の目的

平成 29 年 4 月に開園したばかりの保育園です。葛飾区の住宅街にあり、定員 90 名の保育園ですが、初年度は 2 歳児クラスまで 42 名でのスタートでした。都会の保育園という事で、小さく遊具も何もない園庭があるだけでしたので、0 歳児が日向ぼっこしたり、1・2 歳児がコンビカーに乗ったりするぐらいしか使っておらず、子ども達は近隣の公園に遊びに行くことが主でした。公園に行くと子ども達は真っ先に砂場に行くのですが、そこには近隣の方や他の保育園の子ども達も来ていて、ダイナミックな砂遊びや泥んこ遊びをすることはできませんでした。水・砂・土を使って遊べる環境は子どもが成長する過程でも重要です。せつかく園庭が小さいながらもあるので、ここで思いっきり遊ぶことで、身も心も開放し、本来の自分を表に出すことができ、夢中になって遊ぶことで五感が磨かれ、豊かな感性が育まれることを願い、また保育者と共に遊び、楽しむことで、創造性や非認知能力を育てていきたいと思いました。



2. 具体的な実施内容

0歳児

苦手な砂も大好きになりました。
園庭の砂場なのでとても安心です。



1・2歳児

裸足で思いっきり遊んでいます。
泥の感触、水を入れることによる土の感触と温度の変化などが直接肌に感じられます。



3歳児

大きなシャベルを使って、穴を掘りそこに水をためました。
公園と違い、後の事を気にしなくていいので、遊びが大胆になり、砂、泥の感触を楽しんでいます。



3. その成果と評価

- ・ 0歳児は衛生面も考えて、公園の砂場ではある程度の月齢にならないと砂遊びをさせられませんでした。園庭に砂場が出来たことで、砂遊びを嫌がっていた子も安全に砂遊びができ、砂の感触を楽しむ姿が見られるようになりました。手の平からサラサラの砂がこぼれ落ちるのを見て、何度も繰り返しながら、ゆったりとした時間を過ごすことができ、情緒の安定が図られたことと思います。
- ・ 1・2歳児はテーブルの上に型ぬきやバケツを使って見立て遊びをしたり、大きなお山をつくったりする中で、保育者との会話を楽しんだり、可塑性の高い素材という事で子どもの働きかけで容易に変化する様子に好奇心が掻き立てられ、遊びに広がりを持って、豊かな感性へとつながっていきました。
- ・ 3歳児は砂・泥んこ遊びを思いっきり楽しめるようになったことで、友達や保育士との会話が弾み、今まで発揮されなかった個性が引き出されるようになりました。スコップやシャベルを使って、山やトンネル、川をつくるなど、夢中になって遊ぶことで、免疫力を高め、体力がついてきました。砂場により、活動の場がひろがり、五感が刺激され、今では砂遊びが一番大好きな遊びとなっています。

4. 今後の課題と展望

砂場ができたことで、砂や泥んこに触れる機会がたくさん増えました。

水、砂、泥、で遊べる環境は子どもが成長する過程においてとても重要視されており、「汚い」「後が大変」という大人の思いとは違い、子どもは本能的に「気持ちいい」と感じるといいます。ですから、身も心も開放し、のびのびとした環境作りが必要だと考えます。

そのためには、年齢、発達ごとにカリキュラムを作成し、年齢に応じて、じっくり手先、指先を使った遊びや見立て遊びができる環境づくりを、幼児クラスでは、更にダイナミックな遊びの展開ができるように五感を刺激し、その中で友だちと一緒に遊ぶ楽しさ、協力する事の大切さなどの非認知能力を育てていけるようにしていきたいと思っています。

砂場が園庭に出来たことで夏の遊びがさらに充実したものになるように、そして子ども達が豊かな経験を積み重ねていけるように子ども達とこれから話し合いながら進めていこうと考えており、どういう展開になるか楽しみにしています。

以上